

安全データシート (SDS)

作成 2004-02-26
改訂 2022-02-07

1. 化学品及び会社情報

製品

化学品(製品)の名称 メンテナンスオイル
製品のコード Z016117

供給者情報

会社名 株式会社ナカニシ
住所 〒322-8666 栃木県鹿沼市下日向700 (本社所在地)
担当部署 品質保証部
電話番号 0289-64-3380(本社代表) 0289-64-7277(品質保証部)
FAX番号 0289-62-5636(本社) 0289-64-3890(品質保証部)
推奨用途及び使用上の制限 歯科用ハンドピース潤滑油

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類

健康に対する有害性:

誤えん有害性 : 区分1

* 記載がないものは区分に該当しない、分類対象外又は分類できない

GHSラベル要素:

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

[応急措置] : 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
無理に吐かせないこと。

[保管(貯蔵)] : 施錠して保管すること。

[廃棄] : 内容物は使い切り、容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

GHS分類に該当しない他の危険有害性:

重要な徴候及び想定される非常事態の概要:

3. 組成/成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質

組成及び成分情報

成分名 (化学名又は一般名、別名)	CAS No.	濃度又は濃度範囲 (wt%)	化学式 又は構造式
白色鉱油(石油)	8042-47-5	100	非開示

濃度限界未滿だが、SDS作成濃度以上の成分: 11項を参照

4. 応急措置

以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること。

- 吸入した場合 : 大量に吸い込んだ場合、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移す。
暖かく安静にし呼吸しやすい姿勢で休息させる。
呼吸が不規則か止まっている場合には気道を確保し、人工呼吸または酸素吸入を行う。
気分が悪くなった場合、空気の新鮮な場所で安静にし速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布で素早く拭き取る。
多量の水と石鹼(又は皮膚用の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。
大量に付着したり全身にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。
溶剤、シンナーは使用しない。
外観に変化がみられたり、痛みがある場合は医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 清浄な水で数分間注意深く洗う。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外す。
その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。
眼が開けられない場合、無理にあけさせない。
眼の刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断を受ける。
揮発性の高い物質を含んでいる為、無理に吐かせるとかえって危険な場合がある(化学性肺炎を引き起こす可能性がある)。
自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
嘔吐物は飲み込ませない。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
医師の指示による以外は無理に吐かせない。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し吐くことがある。嘔吐中に飲み込んだ内溶液が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし致命的となることがある。
- 応急措置をする者の保護 : 換気を行う。
救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク、保護手袋、保護衣等)を着用する。
火気及び着火源に注意する。
- 医師に対する特別な注意事項 : 情報なし

5. 火災時の措置

- 消化剤 : 強化液(霧状)、泡、粉末又は炭酸ガス(消火剤が有効である。)
- 使ってはならない消化剤 : 棒状注水
- 特有の危険有害性 : 火災時に刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 着火源を取り除く。初期の火災には、粉末又は炭酸ガスを用いること。
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効。
注水は、火災を拡大し危険な場合がある。
周囲の設備などに散水して冷却すること。
- 消火を行う者の保護 : 消火は風上から行い、必ず消防服を着用すること。
-

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置環境に対する注意事項 : 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用すること。ミストが発生する場合は、呼吸用保護具等を使用してミストを吸入しないこと。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように可能な限り回収する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。
- 二次災害の防止策 : 土砂、ウエス等で吸収し、空容器に回収し後で処理をする。(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる) 衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の工具を用いて回収する。
- : 付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。火花が発生しない工具を使用する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策(推奨) : 取り扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
- 局所排気・全体排気 : 取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱う。密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業する。
- 安全取扱注意事項 : すべての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わない。ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。常温で取り扱い、水分、夾雑物が混入しないようにする。ミストを吸入しない。周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する-禁煙。休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。混触禁止物質と接触しないように注意する。
- 接触回避衛生対策 : 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- : 取り扱い後は手をよく洗う。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しない。
- 保管
- 保管条件 : 幼児の手の届かない所に置く。 : 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する-禁煙。静電気蓄積を避けること。混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。
- 安全な容器包装材料 : 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度(ばく露限界値又は生物学的指標)

成分名	管理濃度 (安衛法)	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
白色鉱油(石油)	設定されていない	3mg/m ³	5mg/m ³	10mg/m ³

※安全衛生情報センター、NITE CHRIP記載データ等に基づく

※許容濃度が設定されていないものは省略している。

- 設備対策 : 排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
 取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とする。
 屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。
- 保護具 : 必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家等の意見を聞いて実施する。
- 呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク、(密閉された場所では)送気マスク等
- 手の保護具 : 保護手袋(不浸透性、耐油性等)
- 眼の保護具 : 保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面等
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣(長袖、不浸透性、導電性)、導電性の靴、前掛け等(耐溶剤性)等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色-白濁色
臭い	無臭
融点/凝固点 (混合物の場合は、記載省略可)	データなし
沸点又は初留点及び 沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び 爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	160 °C(クリーブランド開放式、測定値)
自然発火点	260 ~ 371 °C
分解温度	データなし
pH	—
動粘性率(混合物の 場合は、記載省略可)	7.98 mm ² /s(37.8°C、測定値)
n-オクタノール/水分 配係数(log 値)(混合物 の場合は、記載省略可)	log Pow > 6
蒸気圧	ほとんどない (20°C)
密度及び/又は 相対密度	0.84 (20°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ(放射性、 かさ密度、燃焼持続性)	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 通常の使用において安定している。
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。 静電気蓄積。
混触危険物質	強酸化剤、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類
危険有害な分解生成物	: 燃焼等により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素等)を発生する。

11. 有害性情報

(有害性は、内容液と噴射剤に分け有害性を判断した。噴射剤がガス又は気体として有害区分に該当する場合は記載した。)

急性毒性(経口)	: ラット LD50 > 5,000mg/kg
急性毒性(経皮)	: データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入ガス)	: GHS定義による気体ではない。
急性毒性(吸入蒸気)	: データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入粉じん/ミスト)	: データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: 皮膚刺激性は認められなかった。(ウサギ、24時間) 皮膚刺激性はわずかに認められた。(テンジクネズミ、時間不明)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 眼刺激性は認められなかった。(ウサギ、時間不明)
呼吸器感作性	: データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: 皮膚感作性は認められなかった。(テンジクネズミ、時間不明)
生殖細胞変異原性	: ネズミチフス菌を用いたAmes試験によれば陰性であった。
発がん性	: 高度精製油はIARCグループ3(人に対する発がん性について分類できない)に該当する。
生殖毒性	: 生殖能力への有害な影響は認められなかった。(雌雄のラット 4,350mg/kg、5日/週、13週間投与)
授乳に対する又は授乳を介した影響の区分	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	: 40℃で測定した動粘性率が 20.5mm ² /s 以下の炭化水素である。飲み込むと、肺に吸い込んで化学性肺炎を起こすことがある。化学性肺炎の症状は、2~3時間ないし数日経過するまで現れない。
その他	

12. 環境影響情報

生態毒性	: LC50 > 10g/L (ブルーギル, 96 時間)
残留性・分解性	: 製品データなし
生体蓄積性	: 製品データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書に規制されている物質を含まない。
その他	: 現在のところ有用な情報はないが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意する。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理する。
- 汚染容器及び包装 : 関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。
廃棄をする場合には、内容物を完全に排出した後に行う。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理する。
-

14. 輸送上の注意

- 国連番号 : 非該当
- 品名 (国連輸送名) : 非該当
- 国連分類 (輸送における危険有害性クラス) : 非該当
- 容器等級 : 非該当
- 海洋汚染物質 (該当・非該当) : 非該当
- MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当) : 非該当
- 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策
- 国内規制がある場合の規制情報
- 陸上輸送 : 消防法、道路法等の輸送について定めるところに従う。
- 海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。
- 航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。
- 緊急時応急措置指針 (容器イエローカード) : 情報なし
- 番号
-

15. 適用法令

- 化学物質排出把握管理促進法 (化管法) : 非該当
- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物:
非該当 (鉱油に該当しない 原料メーカーSDS)
名称等を通知すべき危険物及び有害物:
非該当 (鉱油に該当しない 原料メーカーSDS)
有機溶剤中毒予防規則:
非該当
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 化学物質審査規制法 : 特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。
- 消防法 : 第4類 第3石油類 (非水溶性)
-

16. その他の情報

参考文献

: 原料SDS
NITE 化学物質総合情報提供システム
NIHS 国際化学物質安全性カード
環境省 Chemi coco
労働安全衛生法対象物質データ
JIS Z7252:2019
JIS Z7253:2019
Globally Harmonized system of classification and Labelling of chemicals (GHS) UN ST/SG/AC.10/30/Rev.8

記載内容の取扱い

: 本SDSは、JIS Z7253:2019に準拠し、作成している。
全ての資料、文献を調査しているわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。
また、新しい知見の発表や従来の説の改訂等により内容に変更が生じることがあります。
記載された情報は、情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。
全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いは細心の注意が必要です。
本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。
